

学校だより

「笑顔」「挨拶」は、

明るく活力ある校風を生み出すバロメーター

花見月と呼ばれるほど、たくさんの草花が咲き誇り、暖かな日差しが春の喜びを感じさせる季節となりました。連日、報道される新型コロナウイルスの対応が懸念されますが、今は風評に惑わされず予防策を講じ、一刻も早く流行が収束することを願っています。学校では、今年度の教育実践を振り返り、一年間の感謝と次への期待に胸躍らせるとともに、次年度への準備を怠らずに取り組んでいきます。今年度も様々な場面で生徒たちが活躍し、学校に活力を与えてくれました。

私は、明るく活力ある校風を生み出す力、教育活動を評価するバロメーターは、「笑顔」と「挨拶」があふれているか否かだと思っています。「笑顔」は、赤ちゃんが、生後一か月位で見せる「新生児微笑」であり、親に可愛がって育ててもらうための本能の微笑みが始まりだと言われています。赤ちゃんが「新生児微笑」をすることで周りの大人が笑顔になり幸せな気持ちになること。この時の体験を通して「笑顔」という表情が人に優しさと和みをもたらすことを学習し、人は「笑顔」を繰り返すようになっていくのだと言われています。「笑顔」はどの人にとっても、その人の一番すてきな顔です。表情を見るためには、生徒が自他を大切にし、大人が適切に働きかけ、彼らの自尊感情が高まったときに、すてきな「笑顔」が生まれるのだと思います。今年も多くの生徒たちからすてきな「笑顔」ももらい、優しさと勇気をもらいました。春は、別れと出会いの季節です。「笑顔」のプレゼントで、今までの感謝を表していきたいものです。

「挨拶」についても、学校の活力が問われます。本校では、残念ながらここ数年、「挨拶」については、学校評価等で課題が指摘されています。社会人として働くゴールデンルールは「挨拶」「時間を守る」「約束を守る」と言われています。当たり前のことですが「挨拶」の仕方一つとっても、ある程度その人物の状態を推し量ることができるほど、声の音色、音量、そして表情から、相手に良くも悪くも印象を感じさせることは経験がある方もいることと思います。また「挨拶は、相手の存在を認め、相手に心を開くこと」「人として生きて



いく上でもっとも大切な流儀」「人として心と心をつぐ最小の行為」であり、「挨拶」が大事だと思う心を持つことが大切です。自分が変わり、学校が変わり、他人も大切にできる「笑顔」「挨拶」を意識して行うことで、毎日が気持ちよく過ごせると思うのですが。生徒会スローガンと同様に、「笑顔」「挨拶」でも「狭一の学校」を目指しましょう。